

平成23年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	佐賀県立巖木高等学校		
2 所在地	唐津市巖木町巖木727		
3 校長名	荒牧 昭二		
4 学級数 児童生徒数	12学級 425人	5 実施学年 児童生徒数	全学年 425人

6 取組のねらい

UDに大切なのは、「相手を尊重し、思いやること」である。「他の人の立場になって物事を考える」ことでUDのアイデアが湧いてくる。本校は、教育目標に「社会に貢献できる心豊かな大人になる基礎を培う」と謳っており、いろんな世代の人との交流や話を聞くことで、相手を思いやれる心豊かな生徒の育成を図っている。今回は、UD教育に繋がる心の教育の実践例を紹介する。

7 取組の実際

(1) 義足のランナー 島袋 勉さんの講演会

日時：平成23年6月20日（月）1，2限目

演題：「夢をあきらめない！」

不慮の事故により両足を切断した島袋さんが、自分の状況からは一番できそうもない“マラソン”を選び、目標にすることで、日々の生活を前向きに過ごしていることを紹介する講演であった。話を聞いたすべての人が、勇気や自信を持ち、生きる力を感じる話だった。

(2) 小高連携事業

① 高校生による夏休みの水泳教室補助

7月25日（月）からの3日間、簗木小学校にて水泳教室が行われた。本校からは約10名の生徒が参加し、水泳が苦手な児童の指導にあたった。最初はなかなか上手に泳げなかった児童も高校生のアシストで3日目にはかなりの上達が見られ、最後は感動的であった。また、最後に小学生から「また、来年も来てね。」の言葉に本校生徒も満面の笑みを浮かべていた。



② 森の妖精「プティリツア」制作

間伐材を利用して森の妖精（愛称：プティ）を制作した。まずは”間伐”についての理解を深めるために、10月26日（水）に本校3年生20名（選択授業「ボランティア」受講者）と簗木小学校4年生24名で森林見学へ行った。唐津農林事務所の若宮征喜さんよ



り間伐についての説明をして頂き、見学場所の所有者である田久保藤人さんには間伐を上演して頂いた。間伐を行うことによって植物の成長に影響を与えることだけでなく、災害防止につながるなどを知り、プティ作りに向けての意識向上につながった。

(3)東日本大震災のボランティア参加

震災直後、被災者のために何か出来ることをしたいと考え、生徒が主体となって募金活動や折り鶴作りを行い、その思いを届けた。しかし、復興はまだまだ遠く、生徒たちの心には「もっとできることを何かしたい」という思いがあり、ついに現地でのボランティア活動が実現した。生徒、職員、保護者の計10名で11月4日(金)から宮城の南三陸町に行き、土嚢作りや瓦礫撤去のボランティア活動を2日間行った。



(4)心の朗読

朝の読書の時間を利用して、放送部員の朗読を放送で流し、全校生徒が聞くというものである。親の愛情やあいさつに関すること、ある商人の考え方等が10～15分にまとめられている。昨年度は試行で、今年度は本格的に実施している。

実施日：平成23年5月23日～25日(3日間)

平成23年7月4日～6日(3日間)

平成23年10月24日～26日(3日間)

平成23年12月12日～14日(3日間)

(5)その他(地域交流の広がり)

本校の教育目標の一つであるボランティア。地域清掃活動を始め、様々な施設と交流を深めている。今年度も岩屋保育園、中島保育園、寿光園、さくれい、唐津特別支援学校、どんぐり村で、清掃及び交流ボランティアをした。また、虹の松原の保全活動として、松葉かきにもいくことができた。今後も地域交流を大切にしていきたいと思っている。



8 取組の成果と課題

今回の取り組みは、ここ1、2年、本校で始めたものである。どれも試行錯誤のうえに行ったもので、計画そのものが完成しているわけではない。しかし、参加した生徒の多くは、他者の気持ちを理解する行動が取れるようになった。将来、生徒が社会人として自立したとき、全ての人にとって安全・安心で利用しやすい物などを提供できるようになってもらいたい。今回の取り組みがその一助となれば幸いである。今後もこれらの活動を続けて、心豊かで、思いやりのある生徒を育成したいと思っている。